

## 高等学校における特別支援教育 (Special Needs Education)

『Classes with S. N. E ～個が輝くから、皆が輝く～ 第2号』のページを開いていただき、ありがとうございます。

今号では、相談例と高等学校における特別支援教育支援体制づくりに関する例を御紹介します。

相談例は、これまでお受けした御相談や京都・朱雀高校特別支援教育研究チーム(2010)：『特別支援教育の新展開(2) 高校の特別支援教育・はじめの一歩-これなら普通の高校でできる、私にもできる-』を参考にし対応を改変して御紹介しています。

### 1 相談例

1 Aさんは、作業を伴う活動は、時間がかかります。線と線が繋がらない、ハサミで紙を切るとまっすぐ切れない、図で考えることが苦手など、思うように形にならず作業に対して投げやりでした。

点と点を押さえて線を引くのですが、いつの間にか、ずれてしまいます。



工程が多いと、途中で完成までの見通しが分からなくなります。

図で考えることが難しいです。形にならないので人に見られたくないし、やり直しばかりになるので面白くないです。



本人が困っていること

指導の工夫の方向性と方法(例)は・・・

作業の楽しさ、完成させることの楽しさを感じられるように支援しよう。そのためには・・・

- 工程を簡単にする、又は工程を減らす。
- 完成までの工程の見通しがもてる手順表を作り、手元で確認させながら作業を進める。
- 直線を引く時には、ペアでずれないように押さえるなど助け合う場面づくりをする。
- 本人が扱いやすい道具を用意して、目印(リボンなど)を付けて選びやすいようにする。

2

書くことが苦手であることや板書を写していると先生の説明が分からなくなるということなど、自分の気持ちは言えませんでした。質問をすることはできないまま、授業が進んでいました。

字を書くことと同時に、説明に注意を向けることは難しいです。



字の形が複雑になると覚えられませんでした。何度も黒板を確認していると時間が足りなくなりました。

本人が困っていること

指導の工夫の方向性と方法(例)は・・・

書くことの抵抗感を減らそう。説明に集中できるようにしよう。そのためには・・・

- ノートを書く時間は別に確保する。生徒が聞いていることを確認してから説明する。
- キーワードを大きくしたワークシートで字を分かりやすくする。
- つまづいている時点にさかのぼった漢字テストを定期的に行う。

## 2 特別支援教育支援体制づくりに関する例

平成19・20年度文部科学省「高等学校における発達障害支援モデル事業」の指定を受けた京都府立朱雀高等学校の実践を参考にすると次のような進め方が考えられます。

### 特別でない特別支援教育の進め方(例)

- 1 自校の教育活動の特色と特別支援教育の視点を繋ぐ、かみ合わせる。
- 2 既存の組織を活用して校内体制をつくる。
- 3 気になる生徒の実態を把握する。
- 4 情報を収集し、校内委員会に集約する。
- 5 学校以外の協力者・協力機関を見つける。
- 6 目標水準に到達できるよう、支援体制をとり、特性を踏まえた指導の工夫を行う。

参考: 京都・朱雀高校特別支援教育研究チーム(2010):『特別支援教育の新展開(2) 高校の特別支援教育-はじめの一步-これなら普通の高校でできる、私にもできる-』pp.126-140

### 特別支援教育推進年間計画(例)

年度・学期初め	PLAN/計画	DO/実施	CHECK・ACTION/評価・改善
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 新入生: 出身中学校との連携</li> <li>○ 在校生: 引継ぎシート等作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 配慮を要する生徒の実態把握及び理解</li> <li>○ 個別的教育支援計画・個別の指導計画等作成</li> <li>○ 支援方法検討</li> <li>○ 外部専門家(巡回相談等)の活用検討</li> <li>○ 校内研修計画確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 校内委員会(教育相談会議等)の定例化及び校内研修実施</li> <li>○ 個別の指導計画の学期ごとの評価・立案</li> <li>○ 教科担当者会・学年会等で指導上の留意点等の共有化及び実践</li> <li>○ 相談機関, 巡回相談員等と連携</li> <li>○ 保護者及び生徒面談等実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 個別的教育支援計画・個別の指導計画の評価・改善</li> <li>○ 次年度の特別支援教育推進計画作成</li> <li>○ 校内委員会等で支援方法の評価・改善及び引継ぎ事項検討</li> <li>○ 次年度校内研修計画作成</li> </ul>

参考: 広島県教育委員会: 「一人一人が輝くために一小・中学校における障害のある児童生徒のための支援体制づくり」  
[http://www.pref.hiroshima.lg.jp/kyouiku/hotline/07challenge/h21\\_hitori/hitorihitori.htm](http://www.pref.hiroshima.lg.jp/kyouiku/hotline/07challenge/h21_hitori/hitorihitori.htm)  
 広島県教育委員会: 「特別支援教育ハンドブック NO.3」pp.10-11  
<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/kyouiku/hotline/07challenge/H20tokubetuhandbook3/10youshouchukou.pdf>

## 3 生徒の気付きを校内委員会(教育相談部会,教科担当者会等)に繋げる情報収集の例

気になる生徒についての気付きを共有できるよう、校内委員会に情報が集まるよう工夫します。

### 気になる生徒の気付きカード

記入年月日  
記入者氏名

学科・学年・組・生徒氏名

- ◇ 気になったこと・エピソードとその対応
- ◇ 対応はうまくいったか、困難だったか
- ◇ 「見過ごしていた」、「こうしたらよかった」と思えること

※ 個人の気付きを組織に繋げる視点で記入。

### 教科担当者会議用資料(実態の共有)

氏名	国語	数学	英語
A	〇〇の時、私語が止まらない。◇をすると△だった。	〇〇の時、落ち着きにくい。◇をすると△だった。	忘れ物が多い。◇をすると△だった。
B	〇〇の時、ボーっとしている。◇をすると△だった。	〇〇の時、行動が遅くなる。◇をすると△だった。	学習意欲が感じられない。◇をすると△だった。

### 校内委員会情報収集票項目例

- 本人の良いところ・気になっていること・困っていること
- 学業成績、提出物等
- 本人面接・保護者面接の内容
- 家族状況・生育歴・教育歴等
- 出身中学校との連携
- 相談機関・医療機関等からの情報、諸検査の結果等
- 進路についての希望及び学校での取組状況等



気になる生徒全員についての実態を教科別に一覧表にすることで、生徒の全体像が把握しやすくなります。

生徒の様子は、環境や周りからの働きかけの影響なども含め、相互作用の視点で把握することが大切です。また、複数の教員で多角的に実態をとらえることが重要です。

参考: 京都・朱雀高校特別支援教育研究チーム(2010):『特別支援教育の新展開(2) 高校の特別支援教育-はじめの一步-これなら普通の高校でできる、私にもできる-』pp.171-173